



上末っ子

～ 学び合い みとめ合い 一人ひとりが輝く上末っ子 ～

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamisueyoshi/>

令和5年6月30日

7月号

横浜市立上末吉小学校



学校ホームページ用 QR コードです。学校の様子をご覧いただけます。

相手を思い考えて行動する

副校長 次田 るみ子

自治体をあげて「いじめ予防プログラム」に取り組む大阪・吹田市の取り組みについて取材した NHK スペシャルの番組（5月7日放送）を視聴しました。番組録画をしていたので、先日、二度目の視聴をしました。番組では、小学校3年生の24人が学ぶ教室に NHK の取材班が4か月密着し、児童が自分たちの中にある「いじめの芽」に、あえて目を向け、考えを深めていく様子が記録されていました。番組内では、学校内の児童が話題にする「シンキングエラー」という言葉が心に残りました。

「シンキングエラー」という言葉を検索してみると、「子どもいじめ防止学会」の和久田学氏が提唱しているキーワードのなかで用いられていることがわかりました。和久田学氏は子どもたちに伝えたい“いじめ加害を考えるキーワード”として「シンキング・エラー」と「アンバランス・パワー」を提唱しています。「シンキング・エラー」は、いじめをしてもいじめと気付けない「いじめの芽」について考える言葉であると思いました。

「相手が悪いからやり返す行為」や、「ふざけて遊んでいただけだから」「これくらいしないとわからない」等などの間違っただけの考えを指します。相手の気持ちに気づく余裕もなく、自分を正当化し相手を攻撃する側になってしまうことの怖さについて、先生と児童と一緒に話し合いを重ねていました。

自分はどのように行動するべきか、3年生の児童が悩み、担任の先生に思いを打ち明けて相談していました。クラスのためにと考えて、クラスの前で自分の思いを話し始めた場面では、相当な勇気が必要だったことと思います。相手にどのように伝わるかを考えたり、これからの友達関係について悩んだり、相手を思い、考えて行動することの大切さと難しさを感じました。

本校では昨年度、人権意識を高めるための職員研修を行いました。教職員同士が、『伝える』ではなく『伝わる』を意識して行動すること、「本当に伝えたい思いは何か考え、相手にどのように伝えるのがよいか、どのように伝わるかを考えて行動すること」等を考慮し、相手を思い考えて行動することが、学校のチーム力向上につながると考えました。今年度も児童理解を深め、いじめなどの課題にチームで対応し、安心して登校できるよう支援体制を整えていきます。

また、今年度、校内に情報教育委員会を常設し、ICT 支援員とも連携しながら児童への情報モラル教育を推進していきます。情報教育推進プログラムを参考にして、情報教育で育む資質・能力の育成を図っていきます。iPad 等の情報端末は、主体的に学ぶためのツールとして活用されています。しかし、操作に慣れていくと、誤った使い方をしてしまうこともあり、情報端末を使用する際のルールやマナーの指導は欠かせません。

著作権や個人情報、肖像権、メールや SNS 上の危険性の理解、ネット依存の問題、情報端末を使ったいじめ等についても指導していきます。

保護者の皆様には、保護者説明会等の際に、児童向けの防犯教室「防犯・サイバー教室（ネットトラブル）」で指導をお願いした講師をお招きし、SNS 上の危険や情報モラルについて情報を共有する場を設けました。

夏休みを前に、児童が所有する情報端末については、ご家庭でしっかりとルールを取り決めておくことが大切です。児童を騙そうとする情報や悪意のあるサイトがあることへの理解や、ネット依存等にならないような調和のある生活を考えていけるよう、今後ともご協力よろしく申し上げます。